

新たな高知県史【近世編】の編集について

R5.8 高知県史編さん近世部会
高知県史編さん事務局

第1 課題と目指す方向性（編集の前提）

1 前回県史の項目と課題

- 前回の県史の近世編は、「政治」「社会・経済」「文化」に関する基本的な項目を取り扱った。（別添『高知県史』近世編（昭和43（1968）年刊行）を参照）

【政治】

- 藩政
（支配・法制、改革、幕藩関係…）
- 財政
- 身分（郷士、村役人、被官…）

【社会・経済】

- 地域社会
（農村、漁村、山村…）
- 経済活動
- 産業

【文化】

- 学問、教育
- 宗教、思想
- 文学

- 課題

（1）分野や地域に偏在があった

- ・ 社会経済史に比重が置かれ、政治史の扱いが薄かった
- ・ 「資料編」は旧野根村の史料のみ掲載されていた（山内家資料は掲載されず）

（2）新たな歴史的課題や、全国的な視点が反映されていない

（3）高知の特色ある視点が十分に反映されていない

2 新たな県史で目指す方向性

（1）分野や地域の偏在の解消

<分野> 政治史に関する史料の重点調査

- ・ 主要な3つの武家文書群を重点的に調査

山内家資料：大名（高知城歴史博物館蔵）

五藤家文書：土居付き家老（安芸市立歴史民俗資料館蔵）

加賀野井家資料：後に家老（高知市民図書館蔵）

<地域> 各市町村へ史料の所在調査 ⇒ 地域の偏在がないよう調査、掲載

（2）新たな歴史的課題、全国的な視点の反映

（例）「生活」… 武家、町人、百姓等の生活実態がわかる日記や農事録等の調査

「女性の役割」… 女性の日記、書翰、葬送記録等の調査

「環境」… 植林関係、入会地の管理等に関する調査

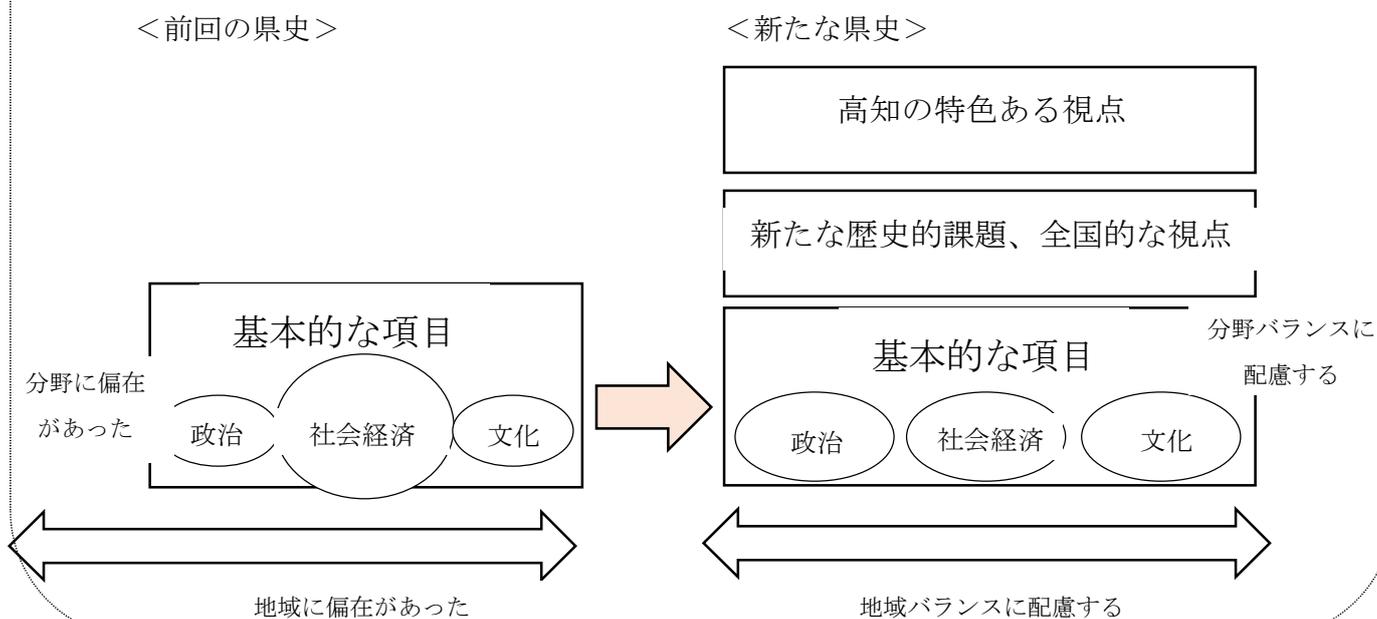
(3) 高知の特色ある視点の反映

- (例) 「災害・防災」… 火事、風水害、地震・津波など災害に関する調査
- 「海防」… 異国船や漂流船対応、沿岸の防備体制に関する調査
- 「宗教（四国遍路など）」… 四国遍路や廃仏毀釈に関する調査

(4) 日本史学における研究成果の反映

- (例) 全国的に進展している藩に関わる研究の成果を、資料調査や編集に活用

〔参考：取り扱う項目のイメージ図〕



3 新たな県史の目指す姿と進捗管理

- 基本的な項目だけではなく、新たな項目を踏まえた資料調査の成果、また資料調査の成果から新しく描き出される項目を加えることにより、県民の歴史への理解と郷土への愛着を深めることにつながる新たな高知県の歴史の提示を目指す。
- 刊行までのスケジュールは、当面は「資料編」の刊行が中心となるため、編集開始までに採録される資料調査に目処をつけ、編さん計画に基づき3年間の編集期間へ経て各「資料編」を発刊する。
- スケジュールは、専門部会での作業確認や編集委員会への報告、事務局による作業の個別管理などにより、進捗に遅れが生じないよう適切に管理していく。

第2 編集の基本的な方針

- (1) 近世編が対象とする時代は、原則として土佐山内氏の入国(慶長5(1600)年)から高知藩の廃藩(明治4(1871)年)までとし、本県の近世期の特色やあゆみが理解しやすい構成とする。
- (2) 掲載する項目は特定の分野に偏ることなく、政治や社会・経済、文化などの様々な分野をバランスよく取扱い、本県近世期の全体像を捉えることができる内容とする。
また、本県が歩んできた「一国＝一藩＝一県」の歴史的特性を踏まえつつ、一方で土佐一国のうち各々の地域性にも注目し、地域の視点を大切にしたい記述を心がける。
- (3) 近世編では、全国的にも注目される時代や分野(例えば幕末期、災害と防災など)について取り扱い、本県の近世史の特色のみならず、現在の日本史学における研究水準と成果を反映することを旨とする。
- (4) 前回の高知県史以降に得られた最新の調査・研究の成果を十分に反映させるとともに、悉皆的な調査により新たな歴史資料の発掘に努める。
また、本県の近世史に興味を持つあらゆる人々が、自らの学習・調査をする際に活用できるように配慮して、本編及び資料編を構成する。
- (5) 歴史資料調査や編集の過程では、できるだけ多くの県民や団体に参画してもらい、今後の本県の歴史調査・研究を担える人材の育成を重視した編さんを行う。